

あなたも民間委員会へご参加を！

民間企業技術者研究者問題委員会へ 参加の呼びかけ

民間企業技術者研究者問題委員会 委員長 長田好弘

日本の研究者・技術者数の6割弱、研究費にいたっては7割が民間企業です。科学者運動における民間企業の研究者・技術者の重要性は強く叫ばれていながら、日本科学者会議においても民間の会員数は極めて少なく、民間企業技術者研究者がかかえる様々な問題の解明、対策は不十分でした。本民間企業技術者研究者問題委員会に参加するメンバーも今までは民間企業の研究者・技術者のみでした。今後は、民間企業研究者・技術者に限らず、大学・研究機関の研究者・技術者にも広く参加を呼びかけたいと思っています。

当面、本委員会の活動として、以下の各項目の検討、把握を重点的に行いたいと考えています。

- (1) 民間企業の研究者・技術者がわが国の科学・技術開発推進において果たしている役割
- (2) 民間企業研究所の管理体制、研究テーマ、研究者・技術者の研究・労働条件と諸要求等
- (3) 学問の自由と民間企業の研究者・技術者の社会的責任・役割等との諸関係
- (4) 軍事研究の実態
- (5) 民間企業の研究者・技術者の労働組合活動の状況、専門職性としての統一要求、その実現のための全国横断的な単一組織の可能性
- (6) 研究者・技術者の諸要求、労働条件・研究条件は「官民」を問わず共通項が広がってきており、諸要求の実現の共闘・連帯

民間企業の研究者・技術者だけでなく、大学関係者、大学院生、公立および独立法人化された研究機関の研究者・技術者のかたがたの参加もお願いします。

ご関心のある方は、JSA全国事務局、または minkan-jimu@jsa.gr.jp にまでご連絡下さい。

裏面に具体的な活動を紹介しています

民間企業技術者研究者問題委員会（民間委員会）では

こんな活動をしています

民間委のメンバはそれぞれの分野、地域で科学者会議の活動としての研究テーマ等をもって活動しています。そして年2回（春・秋）の定例の民間委員会を開催して交流と討論を行うとともに、併せてオープン参加のシンポジウムを開催、毎回、委員を中心に3件（一件討議を含め40分）程度の話題提供を行い、討論、検討を深めています。さらにこうした活動をもとに、全国総合学術研究集会や東京科学シンポジウムで民間委員会として分科会を設置したり、各委員がその研究成果を発表するなどの活動を行っています。下記は、最近の委員会やシンポジウムでの報告テーマの一覧です。

民間委員会主催シンポジウム発表演題

開催年月	発表者と発表演題
2008年3月	藤田実 「キヤノン高収益の陰で何が起きているか」 西田陽子 「研究開発部門の管理職の過労死をめぐって」 宗倉哲 「多国籍企業の研究開発アウトソース」
2008年10月	栗野宏 「山形県支部の活動紹介とまちづくり運動－米沢市の経験から」 佐藤保彦 「我が国の原発の危険性について」 増澤誠一 「霞が関における過労死事件についての考察－A省の事例－」
2009年3月	栗野宏 「技術士制度の現状－技術士第一次試験を体験して－」 酒井士朗 「専門職の勤務実態、過労死、自死問題－17 総学ポスターセッションでの提起から－」 宗倉哲 「世界同時不況下の企業戦略の特徴」
2009年10月	西田陽子 「ポストドク・苗登明さんの過労死裁判支援の取り組みとポストドクの労働の過重性について」 長田好弘 「衣川清子不当解雇・不当判決の撤回をめざすたたかひの意義について」
2010年3月	長田好弘 「事業仕分け」の功罪 西田陽子 「緊急報告 中国人ポストドクの過労死裁判 民事訴訟で会社と和解」 北口久雄 「ソフトウェア労働、派遣労働、過労自殺について」
2010年10月	久志本俊弘 「企業の中の研究開発の最近の現場の特徴・問題点と解決の方向性 －とくに若手の技術者の育成とその権利意識強化のために－」 酒井士朗 「トヨタ車リコール問題は私たちに何を警告しているか －電子制御化・情報化が進む中で安全性を考える」
2011年3月	藤田実 「大企業の産業競争力強化のための民主党政権の成長戦略」 久志本俊弘 「企業の中の研究開発の最近の現場の特徴・問題点と解決の方向性」
2011年10月	長田好弘 「原発の‘安全神話’を根こそぎ打ち砕くために何が必要か」 ビデオ鑑賞: 原発事故 労働者の実態と放射能汚染問題を考える－ビデオ上映を観ながら－ 酒井士朗 「東日本大震災と情報通信－震災から学ぶもの－」
2012年3月	北口久雄 「ソフトウェア労働者の過労自死問題 裁判の現状とこれから」 長田好弘 「原発廃止に向けて英知の結集を 科学者の社会的責任を考える」 久志本俊弘 「緊急レポート いま大阪市でなにが起きているのか」

